

日本共産党

磯城郡議員団だより

芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
 川西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415
 吉田 容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
 田原本町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446
 森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
 田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570
 (事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
 三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

大企業 20 社 利益剰余金 1.4 兆円増

賃金 2.9 万人分
内部留保活用を

企業の内部留保の主要部分である利益剰余金が上位 20 社（上場企業）で 2011 年度に前年度よりさらに約 1 兆 4500 億円増えたことが本紙の調べで分かりました。

11 年度は上位 20 社合計で 6 兆 8395 億円。10 年度は 6 兆 13892 億円、09 年度は 5 兆 9777 億円でした。日本経済が低迷する中でも内部留保を着実に増やしています。11 年度上位 20 社に入った企業を見ると、前年度より増やしたのは 16 社。最も多くため込んでいたのはトヨタ自動車は 11 年度より 1 兆 9171 億円。10 年度より 814 億円増やしました。2位のホンダは 11 年度より 8162 億円。前年度より 1033 億円増やしました。20 社中、この 1 年間で最も多く増やしたのは三菱 UFJ フィナンシャルグループの 8026 億円。製造業では日産自動車の 2758 億円増でした。

20 社の積み増し分は年収 500 万円の労働者の賃金約 29 万人分に当たります。これを取り崩すだけで多くの雇用を生むことができます。

日本経済の立て直しには大企業内部留保の活用が不可欠です。そのためには、財界・大企業中心の自民党型政治を転換して大企業に社会的責任を果たさせなければなりません。

日本経済に還流させ、国民の所得を増やし、家計を温め、日本経済を内需主導の健全な発展の軌道に乗せる改革を目指しています。

2012 年 11 月 25 日(日)

「政 党 助 成 金 5555 億 円
身を切るから」と
言いながら 各党山分け

「（消費税）増税を求める以上、議員も身を切る必要がある」。解散宣言の場となった国会の党首討論（14 日）で野田佳彦首相は衆院の比例定数削減を持ち出し、選挙後にも自民、公明両党とともに強行しようとしています。「身を切る」というのなら、政党が山分けし続けている政党助成金（年 320 億円）こそ撤廃すべきです。

政党助成金の原資は、赤ちゃんからお年寄りまで国民 1 人あたり 250 円の税金。支持政党にかかわらず国民の税金を山分けするなど、憲法が保障する思想・信条の自由に反する制度です。政党本来の財政は、国民との結びつきを通じて自主的につくるべきものです。

日本共産党はこうした立場から、1995 年の同制度発足から 17 年間、一貫して受け取りを拒否し、撤廃を主張。その 17 年間に拒否した総額は実に 350 億円以上にのぼります。「草の根で国民としっかりと結びついて政党助成金にも企業献金にも頼らずに、自前で立派に財政を支えている政党が日本共産党」（志位和夫委員長）です。

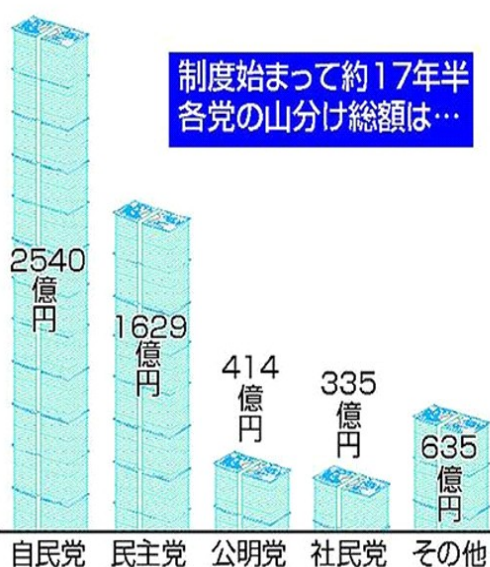
一方、自民、民主、公明などは一貫して受け取り続け、その山分け総額（95 年）2012 年 10 月）は 5555 億円。現在の受け取り政党は 11 党ですが、離合集散した政党を含めると 28 党が政党助成金を懐に入れてきました。「日本維新の会」など新党も政党助成金の受け取りを表明しています。

日本共産党

きっぱり拒否！
その総額は…

350 億円以上

制度始まって約 17 年半
各党の山分け総額は…



2012 年 11 月 26 日(火)

東日本地震・12 号台風への
救援募金にご協力を

【郵便振替口座】

0017017198422

名義は、日本共産党中央委員会です。送金いただく場合は、振替用紙の通信欄に、「地震救援募金」である事の明記を。
磯城郡日本共産党議員団

選挙区は
候補者名で
比 例 代 表 は
「日本共産党」
など政党名で

大企業優遇
不公平感
こくた氏 応分の負担提
起

24 日放送の日本テレビ「ウェークアップ！ ぷらす」で選挙の争点の「経済再生」「社会保障」について各党代表が意見を述べました。

番組は、国民所得の落ち込みを示し、景気対策を求める国民の声を紹介。自民党の世耕弘成幹事長代理は、「円高、デフレ対策をしないと景気回復はない」として「大胆な金融緩和」を主張しました。

これに対し、日本共産党のこくた恵二国対委員長（衆院比例近畿ブロック・京都 1 区候補）は、「金融緩和はこの 20 年ずっとやってきた。実体経済がよくなるしないと景気はよくなる」と反論。「国民所得が減っているときに消費税増税は許されない。所得を増やす施策こそ必要だ。電機・情報産業のリストラを政治の力でストップさせることも必要で、雇用の安定なしに景気対策はない」と指摘しました。

社会保障の財源について司会の辛坊治郎氏は、増え続ける社会保障費のグラフを提示。財源をどうするか各党に問いました。

維新・橋下徹代表代行や自民・世耕氏は社会保障の削減を主張。

こくた氏は、「社会保障」のためとされる消費税増税が社会保障改悪でしかないことを指摘。一方、法人税や所得税の引き下げが行われてきたとして、「大企業と富裕層に応分の負担を求めて財源を確保すべきだ」と強調しました。

民主、自民両党などは、さらなる法人税減税を唱えたのに対し、こくた氏は、実際の法人税負担率がソニーでは 13%、京セラ 16% など優遇されている事実をあげ、「これ以上引き下げてどうするのか」と批判しました。これには辛坊氏も「不公平感の確かにありますね」と応じました。

2012 年 11 月 25 日(日)

日本共産党発行
しん 赤旗
日刊 3,400 円
月曜版 800 円

ももたろう号運行状況

デマンドタクシーももたろう号は、平成二十二年秋から実証運行されています。

本町は、「平成16年4月に路線バス「田原本為川線」と「桜井百済線」が休止になって以降、国保中央病院線のみ運行しています。が、駅周辺以外の多くの地域が公共交通不便地域になり、多くの高齢者の、買い物や通院に不便をきたしている。」という認識の下、本町に一番あったサービススタイルとして、運行が始まりました。

その目的は、高齢者等の買い物・通院といった日常生活の外出支援公共交通と連携した、ま

ちづくりによる地域活性化でした。その運行がどのような状況なのか？調べてみました。

今年の十月には三百十五便運行されています。十月一日の九時は、ふれあいセンターから根本病院に、戻って、町民ホールから国保病院へ、戻って、グランドストアーからリハビリセンターへ、戻って、ふれあいセンターから忠岡病院へとわずか1時間で行ったり来たりしておられます。全く運行されていない時間は2割もありません。大変必要とされる存在になっていることがうかがえました。

田原本議会議員 吉田容工



マスコミ報道の真偽は

今週末からは、いよいよ十二月に入りますね。慌ただしく歳の瀬へと向かいますが、拍車をかけるように、総選挙が来月十六日投票で行われますので、一層、増しそうですね。

それにしても、連日のマスコミ報道ですが、自民、民主、それに維新を中心にした第三極と言うのが、だいたい新聞紙面から読み取れる文字ですよね。

どない感じてはります。普通、政治情勢がどうなっているか等は、もっぱらマスコミ報道で情報を得ますよね。で、この報道ですが、普通は暗黙の了解で、その内容には全幅の信頼を寄せていますので、世間の動静には実に

大きなウエイトを占めている事に成ります。

しかし皆さん。「ほんまかいな」と、まずは何事もそうですが、このマスコミ報道も含め疑義を持つて臨む事が今日程大事な時は有りません。何せ民主党政権誕生のこの三年間がその必要性を鮮明に物語っているわけですから。

日本共産党が言う、財界と米国の要求を呑む我が国の政治基盤では、皆さんの望みは遠のくばかりです。この二つの大元に切りこむ政治なしには、その実現は無いと言う事を、是非、「ほんまかいな」と、皆さんの眼差しでまずは確かめ下さい。

川西町議会議員

芝和也



自民党の総選挙政策

総選挙が12月4日告示、16日投票が決まりました。すでに選挙戦に突入し、各政党の幹部が全国を走りまわっています。

25日の朝刊に「自由民主」という自民党の特集号が折り込まれ、裏面に自民党の政策が掲載されています。

1つ目の経済成長の項には、「今後5年後に集中改革で、世界でいちばん、企業が活動しやすい国へ。新しい経済成長モデルで雇用を守ります」と謳っています。

今、シャープ、NECなど電機産業では、売りあげ低下で「希望退職」という名の社員のリストアップが横行しています。大企業の内部留保260兆円の1%を取り崩し、働く社員の給料を1万円引き上げれば、内需拡大にもなり、日本経済も好転

することになります。自民党の政策では、働く労働者を守るのではなく、内部留保だけを追求し、企業利益がけを追求する大企業が活動しやすい日本を作ろうというのでしょか。

第4のエネルギー政策では、「安全第一の原則、新たなエネルギー安定供給構造へ」を掲げ、原発の再稼働の可否については「安全第一の原則の下、順次判断し、すべての原発について3年以内に結論をめざします。安全性については、原子力規制委員会の専門的判断に委ねます。」とし、福島原発事故からの教訓を学んでいないのではないでしうか。教訓を学べば、原発の再稼働は即時中止し



吉野山で俳句

前々回の議員団だよりで書いた吉野山に、後援会主催の「紅葉狩り」に行つて来ました。幼児から八十歳過ぎの老若男女二十八人が車に分乗して、蔵王堂、吉野神宮を巡り、燃えるような山々の紅葉を満喫して来ました。

吉野神宮では参加者の方に紙とペンを渡し、俳句を詠んで頂きました。突然の事にもかかわらず皆さん快く詠んで下さいましたので、その一部を紹介します。「雨男返上をして 紅葉狩り」「山かすみ 色とりどりに 吉野山」「雨あがり 紅葉鮮やか 蔵王堂」「人知れず 紅葉葉の音

吉野宮」「紅葉の葉拾つてここは 吉野宮」

そこで私も詠んでみました。「紅葉（こうよう）を上から見下ろす 吉野山」「三体の 青き 仏像 我を刺す」「身仏に 平安祈る 選挙戦」そして帰宅後、楽しかった思い出に浸りながら又、一句。「幼な子と つなぐ手の平 もみじなり」

「車中では 政治談議の 紅葉狩り」 たまには俳句や短歌を詠むのもボケ防止に役立つような気がしました。 皆さんも一句、いかがですか？

田原本町

議会議員

森 良子

